

令和6年度 第1回 富田林市、太子町、河南町及び千早赤阪村
地域公共交通活性化協議会 議事概要

日時：令和6年8月23日（金）午後2時～午後3時
会場：河南町保健福祉センター「かなんぴあ」2階 大会議室

●出席委員 26名

猪井委員、中村委員、釈迦戸委員、江藤委員、大上委員、亀井委員、西田委員、湯口委員、金谷委員、古川委員、伊藤委員、川邊委員、田邊委員（小林氏が代理出席）、野谷委員（谷埜氏が代理出席）、松川委員（オンライン出席）、松崎委員、芝辻委員、市村委員（松本氏が代理、オンライン出席）、中塚委員、吉村委員、松田委員、田中委員、小角委員、森田委員、江島委員、菊井委員

●欠席委員 4名

岡崎委員、井関委員、小森委員、佐藤委員

●公開・非公開の別 公開

●傍聴人数 26名

●会議次第及び議事要旨

案件

（1）令和5年度 事業報告について

事務局より資料1に基づき説明し、承認された。

（2）令和5年度 決算報告について

事務局より資料2-1、2-2、2-3に基づき説明し、承認された。

（3）令和6年度予算の補正について

事務局より資料3-1、3-2に基づき説明し、承認された。

（4）地域公共交通計画の策定状況について

地域公共交通計画策定支援業務の受注者である中央コンサルタンツ株式会社より資料4に基づき説明した。質疑及び意見等は議事概要のとおり

（5）報告事項について

- ・喜志駅乗務員休憩所について、参考資料1に基づき報告した。
- ・スマホ定期券の機能拡充について、参考資料2に基づき報告した。
- ・利用促進に向けた取組について、参考資料3に基づき報告した。
利用促進に向けた取組に関する意見について、金谷委員から発言があった。
発言内容は議事概要のとおり
- ・南河内地域における自動運転バスの導入検討状況について、亀井委員から報告があった。発言内容は議事概要のとおり

（6）その他

事務局より次回会議の開催日時等について、報告した。

日時：令和6年10月23日（水）午後3時～

場所：河南町保健福祉センター「かなんぴあ」 2 階 大会議室

●資料

別紙	委員名簿
資料 1	令和 5 年度 事業報告書
資料 2－1	令和 5 年度 歳入歳出決算書
資料 2－2	決算説明資料
資料 2－3	会計監事の意見書
資料 3－1	令和 6 年度 補正予算（案）
資料 3－2	補正予算説明資料
資料 4	地域公共交通計画について
参考資料 1	喜志駅乗務員休憩所について
参考資料 2	スマホ定期券の機能拡充について
参考資料 3	利用促進に向けた取組について

●議事概要

会長挨拶

吉村会長

公共交通は、利用者からの視点に立つと、高齢者や運転免許証の返納者など、特に交通弱者といわれる方にとっては非常に重要性が増してくる一方で、事業者からの視点に立つと、2024年問題をはじめとする乗務員不足など、取り巻く環境は非常に厳しいものであると認識している。各分野の委員の知恵を拝借しながら、持続可能な公共交通の実現に向けて協議していきたいと思うので、よろしくお願いします。また、4市町村コミバスの愛称が沿線住民の公募により、「金剛ふるさとバス」と決定した。本協議会としては、この「金剛ふるさとバス」が末永く親しみを持っていただけるコミュニティバスとなるよう努力していきたい。

今年度は、年度を通して運行する初めての年度であり、様々な課題に対してどのように向き合い、「金剛ふるさとバス」を持続可能な公共交通としていくかを協議する段階にあると認識しており、現在、この協議にあたって必要な指標となる「地域公共交通計画」の策定に取り掛かっている。

また、去る8月6日において、本協議会を構成する4市町村長の連名で、南河内地域における新たな地域公共交通導入について、地元府議会議員の鈴木府議に調整いただき、地元国会議員の浦野代議士に対して、国への陳情書を提出した。内容としては、未来を見据えた持続可能な地域公共交通の確保について、南河内地域における自動運転バスの実証運行の取り組みに対し、国へ財政措置をお願いするものである。

本協議会としては、「金剛ふるさとバス」をはじめとする、持続可能な地域公共交通の実現に向けて取り組んでいく所存であるので、委員におかれては、引き続き慎重な審議をお願いする。

案件

(4) 地域公共交通計画の策定状況について

猪井委員 公共交通計画を4市町村という広い地域で策定することは非常に難しいことであり、計画の方向性を決定することが非常に重要である。提案として、次回協議会において方向性を具体的に議論していくために、次回協議会までに首長の方々や事務局と、地域の財政事情、バス路線の編成などを含めた、計画に対する素案として大きな方向性について議論したいと考えている。その議論には、私も参加させていただく。

吉村会長 猪井委員の提案のとおり検討していくということによろしいか。

各委員 異議なし

(5) 報告事項について

・利用促進に向けた取組について

金谷委員 金剛ふるさとバスのバスガイドを作成しているが、地域のタウン誌にも4市町村の取組を記事として記載してもらうのはどうか。また、地域の子供も達にバスの乗り方を知ってもらうきっかけとしてバスの乗り方教室やスタンプラリーの開催など、バスがより近い存在となるようなイベントをしていただきたい。

吉村会長 ご意見として承る。

・南河内地域における自動運転バスの導入検討状況について

亀井委員 会長である富田林市長からのお申し出でもあるので、大阪府における新モビリティ導入に向けた検討状況について、簡単に報告させていただく。大阪府における新モビリティの導入の発端は、令和5年9月の大阪府議会の定例会で、鈴木府議会議員の「南河内地域の地域公共交通の維持・確保」に関する議会質問に対して、吉村大阪府知事が自動運転バスを活用できるよう全力で取り組むとの答弁をしたことを受けて、大阪府にプロジェクトチームが設置され、検討に必要な予算が確保されたことから、検討を開始したもの。また、大阪・関西万博で運行される自動運転をはじめとする、新技術を活用し、万博閉幕後の南河内地域において、新モビリティの導入をめざし、地元鈴木府議会議員に多大なお力添えを頂きながら、令和5年12月に吉村大阪府知事とOsaka Metro社長をトップとして、「新モビリティ導入検討協議会」を設置し、これまで2回の協議会を開催してきた。令和5年12月21日に開催した第1回協議会では、自動運転バス導入の早期実現に向けて取り組むことについて共有した。今年の5月から6月にかけては、金剛ふるさとバスの運行地域におけるバス路線でのOD調査とア

ンケート調査を実施した。アンケート調査結果では、約半数近くの方から自動運転バスを利用してみたいとの回答があり、自動運転バスに対して非常に高い関心を寄せられていることを認識した。今年の7月27日の第2回協議会は、知事出席の会議は通常大手前で開催される場所、南河内地域の大阪狭山市で開催し、自動運転バスの運行ルートの検討にあたっての基本方針を確認した。また、同日において、新モビフェスタ in 南河内を大阪狭山市と富田林市の境界近くにある商業施設「エコール・ロゼ」において開催し、自動運転バス車両の実物をお披露目させていただいた。また、8月6日には、鈴木府議会議員のご調整のもと、地元国会議員の浦野代議士に対して、4市町村長の連名で国への陳情書を提出し、南河内地域における自動運転バスの実証運行に対する財政措置をお願いしたところである。9月に開催予定の第3回協議会では、実際に自動運転バスの実証実験の運行ルート

(案)の提示や、自動運転バスの試乗をできればと考えている。今後とも、大阪府としては、地元鈴木府議のお力添えを引き続き頂きながら、自動運転バスなどの導入により、南河内地域の交通課題の解決に向け、取り組んでいきたいと考えている。

猪井委員 国や府においては、財政支援をよろしくお願いする。また、自動運転には段階があり、完全な自動運転であるレベル4までいかずとも、運転支援を行うレベル2を取り入れられるような地域には、積極的に取り入れていただきたい。そうしなければ、なかなか乗務員不足の問題は解決しないので、よろしくお願いする。

以上